

週寫  
報眞

情報局編輯  
六月九日 第二十七五號



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

元帥は身を以て

決戦は空だと示された

若いものは

空へいくんだ

「時の立札」は他へ轉載その他に翻利用下さい



# 海若鷲決意を新にた

海軍記念日の帝都

太平洋の北に南に決戦相次ぐ  
うちに意義深くも迎へた第三十八回海軍記念日、この日、山本元帥の戦死に哀痛、憤怒の極に達した全國民は常在戦場の意氣も逞しく、断乎米英撃つべしの決意を新たにしが、帝都では上浦海軍航空隊の若鷲が宮城遣拜、靖國神社参拜のち市中に堂々<sup>たけなげ</sup>の行進を行ひ、元帥に續いて、あくまで空に米英を撃滅するの威容を示した





海軍記念日に相  
應しく為す演  
行はれた體育大  
會後、大砲飛行  
兵は先軍として  
後軍八百餘人の  
閲兵を行つた



福島縣相馬郡野村の自宅に着けば、両親はじめ祖父母や弟妹たちに取り囲まれ、僅か一年に、こんなにも大きくなつた「おや／＼」この着物は弟の幸男にお下げするんだね「お母さんはじめ」家中はこんなにも嬉しくなつた「志君、何かしら誇らしさの感情で一杯になる



心もろく七つ  
釘を刺かせ、遠  
距離飛行の第一  
歩を踏み出す少  
年飛行兵



# “だんる來へ空もちた君”

土浦海軍航空隊少年飛行兵 郷土の少年にす

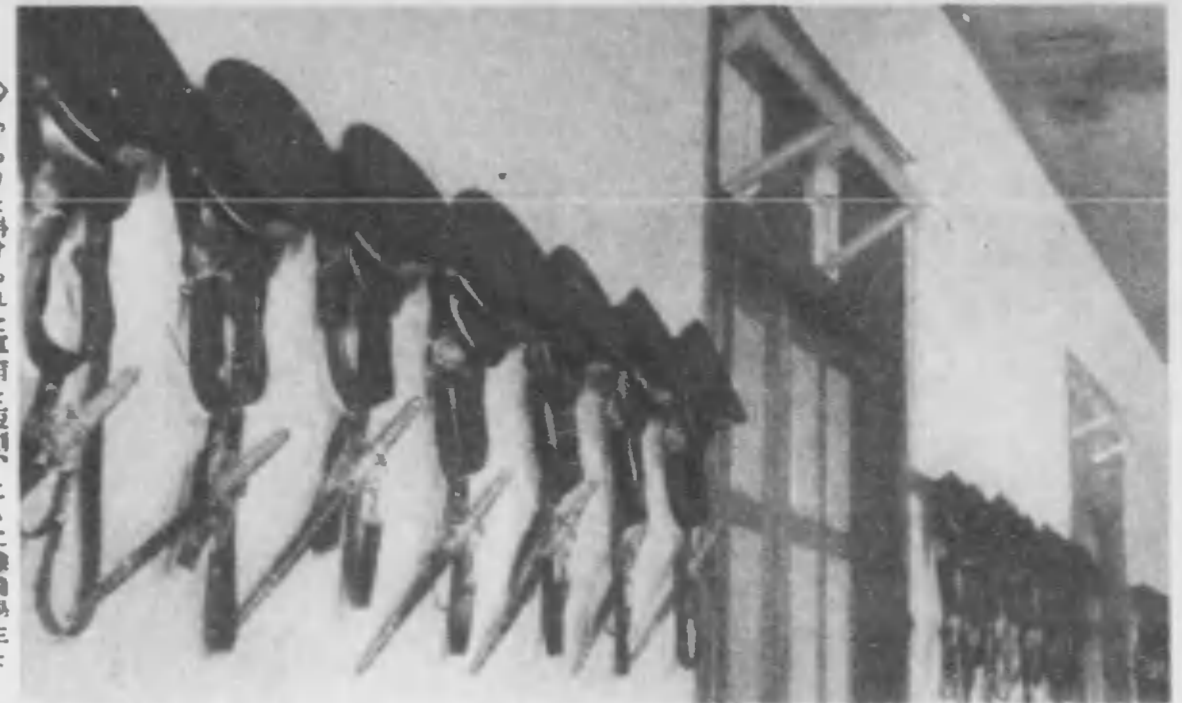
相撲は業ではない、相手を倒さずば止まない取組精神だ。高等科二年の兒童に稽古をつける大砲君

土浦海軍航空隊の少年飛行兵（飛行豫科練習生）の一部は海軍記念日に當り、遠距離飛行を許され、懐かしの母校をたづねた無敵海鷲生みの親、山本元帥の仇を討たうといふ憤激に全身を燃やしてゐるこれらの少年飛行兵たちは、恩師に乞はるるまゝにいづれも母校の演壇に立ち、後輩の少年たちに熱血のほとばしりを浴びさせた

「自分は皆さんと同じやうに、この講堂、この校舎で高等二年まで學んだ大砲一志です。皆さん、自分を見て下さい。自分は海軍の飛行豫科練習生です。やがては山本元帥の後に續いて、南海の空に、北の遼瀋の中に、敵を求めて戦線に向ふ身體です。一度征けば、もとより還らない覚悟です。しかし、今日の決戦に命を賭けるのは自分たちですが、この自分たちの屍を乗り越えて、明日の勝利をめざして立ち上るのは諸君を

おいて外にありません。諸君は立派な少年飛行兵になる資格を持つてゐます。ともに「米英撃滅の空に挺進」しませう！母校福島縣野村國民學校の演壇から呼びかける大砲君の眼がキラ／＼と決意に輝けば、この驚愕のきらめく七つ釘、紺色の制服に、敬愛とあどけない羨望をこめて見上げる後輩たち四百の眼も「征くぞ」の應答を示して異常に輝いた大砲君の講演が終るや、全校八百の兒童は乙族翔騰とは大めく校庭に集り、海軍記念日に相應しく行程往復二里の鳥ヶ濱へ集團行軍を行ひ、先登大砲飛行上等兵を受禮者に堂々の分列行進を行ひ、對岸アメリカにも標げと「撃ちてしまむ」を絶叫した





# 道へ驚海らが生學

生學備豫行飛の隊空航浦ヶ霞



□ さらりと掛けられた軍帽と短剣、こゝに豫備學生としての誇りがある。隊長として、隊長としての未来が輝かしく學生達の眼をいろどる

□ 「武田學生、離着陸五乗飛行出發しますア」隊長の前に烈々の氣魄をこめて報告する學生達のさびきびした言語動作。すでに角帽時代の影は微塵もない

□ ともされた電燈の下に、一語一語も聞きもらすまいと學生達の全神経が、教官の打つ電波に集中される。夜もつゞけられる坐學

□ 飛行作業をへた學生達は飛行服もぬがずに乗機の掃除に懸命だ。生命を託す機なればこそ、翼の隅、支柱の隅隅までたんに磨きあげられる



□ 「應れ」命令一、練習機は一齊に始動を開始した。やがて空母甲板に、南方第一線基地に、求敵必殺の意氣をひそめて飛び立ちようとする日の姿をそのまゝに

□ 「七メートルへもつてくるまでの姿勢が大切なだ」離着陸訓練飛行のはじめに、隊長のこまごまとした注意、筆記する學生の手はさすがにお手なものだ



□ 吾方と思はせる初夏の陽光、濃緑の芝生、紺碧の空をきつて、次ぎ／＼と舞ひ上り舞ひ下り、彩色復葉の練習機、霞ヶ浦航空隊の飛行場には、今日も無数の若鷺達が西南太平洋の、アリューシャンの第一線を目ざして詩烈なまでにけけしい訓練が續けられてゐる。その誠しさに耐へ、しかも僅々一年の短期訓練をもつて、錚々たる生え抜きの海鷺に伍して何等遜色のない度胸を、技術を、武勳を、大東亞各戦線に鮮血をもつて實証した豫備學生出身の幾多の海鷺達。この事實こそは、實行

性がないと危惧されてゐた學生達が、實踐への勇氣と自信を堂々誇示したものであり、國家の要請に應へた忠烈な姿なのであつた。いま、これら先輩のあとをついで、明日の榮ある海鷺を目ざす學園出身の若鷺達は必死の猛訓練をつめてゐる。學生から海鷺への脱皮轉換、しかも僅かに一ヶ年の時日になしとけられる偉大な可能。そこに、學生諸君のみにゆるされた誇りがあつていゝ筈だ  
西南太平洋の第一線に、大陸に出撃してくる敵米空軍第一線飛行士は殆んどすべて學

**母校後輩に寄す**

山川 惠三郎



海軍に入つてから後輩の諸君より種々質問を受けた。訓練は激しいか、辛いことはないか、身体に無理はないか等々、今これらの一つ一々に答へる暇はないけれど、と、角われ／＼は非常に幸福な気持ちで日々の訓練にいそんでゐる。この気持ちを後輩の諸君にぜひ傳へたいと思ふ。

空を制することによつて世界を制するといふ時代は、正に到来したのである。勝利への第一歩はまづ空から踏み出されねばならぬ。この空に搭乗員の養成は、目下の急務であることは論を俟たない。しかし、われ／＼はこの國家の切實なる要求に即應せんとしてゐる。この氣持、これが先づ第一にわれ／＼の幸福の基をなしてゐる。御國のため、しかも大切な使命を擔つて働いてゐる、このはつきりした確信を持つてゐる、このはつきりした確信を持つてゐる、このはつきりした確信を持つてゐる。毎日の生活は男と生れた生甲斐を眞に感ずることが出来るのである。太平洋の空に華と散ることこそ、もともと本懐とするところである。

いま自分が感じてゐることを母校及び全國幾十万の學生諸君にお傳へて、一人でも多く海軍航空隊を志して欲しいと思ふのである。今こそ、われら青年の起つべき秋である。共に仇敵米英を奪り去らうではないか、その氣を凝らして努力せよ。

「おまへのはまだこれかいたんだ、いゝか、だから機がから頭をふるんぢや、一人々々手をとつて教へた學生なればこそ、こま／＼と膝を直してゆく教官の親心。機を生に腰を下ろして教官を罵つた學生達との強いつながり、こゝに日本の海軍の強い一つの秘密があり、學園出身でなほよくあの武闘を握つて得た秘密がひそんでゐるのだ。」

「おまへのはまだこれかいたんだ、いゝか、だから機がから頭をふるんぢや、一人々々手をとつて教へた學生なればこそ、こま／＼と膝を直してゆく教官の親心。機を生に腰を下ろして教官を罵つた學生達との強いつながり、こゝに日本の海軍の強い一つの秘密があり、學園出身でなほよくあの武闘を握つて得た秘密がひそんでゐるのだ。」

**母校後輩に寄す**

生出身であり、さらに幾方の學生空軍部隊を作るべく懸命になつてゐるといふことだ。

學生諸君、この小瀬なメリケン學生飛行士をたゞき落すのは諸君の役目だ。諸君には、その度胸とその意気がある筈だ。かつて世界の運動競技界を席巻して、日章旗を高々と掲げたのは諸君ら學生軍の力だつた。今、戦ひはまさに

國家存亡の關頭にある。君達のその意気と力に再び物をいせるときた。

學園出身の海軍となるの道は大きくひらかれてゐる。こゝに、君達の先賢がよびかける烈々の文字を掲げてみよう。その眞剣な叫びに應へ、これら先賢についで海軍たるの決意に、今こそ起つべき時だ。



**學生から海軍への道**



**學園の若人に激す**

平湯 安

「おまへのはまだこれかいたんだ、いゝか、だから機がから頭をふるんぢや、一人々々手をとつて教へた學生なればこそ、こま／＼と膝を直してゆく教官の親心。機を生に腰を下ろして教官を罵つた學生達との強いつながり、こゝに日本の海軍の強い一つの秘密があり、學園出身でなほよくあの武闘を握つて得た秘密がひそんでゐるのだ。」

「おまへのはまだこれかいたんだ、いゝか、だから機がから頭をふるんぢや、一人々々手をとつて教へた學生なればこそ、こま／＼と膝を直してゆく教官の親心。機を生に腰を下ろして教官を罵つた學生達との強いつながり、こゝに日本の海軍の強い一つの秘密があり、學園出身でなほよくあの武闘を握つて得た秘密がひそんでゐるのだ。」



飛行機志願者の學園生

飛行機志願者、これこそ學園生がその志を實現するに必要とするものである。我が國のそれとを比較するに、實に驚くべき差がある。我が國のそれとを比較するに、實に驚くべき差がある。我が國のそれとを比較するに、實に驚くべき差がある。

**飛行機志願者の學園生**

身體検査、口頭試問の日時、場所

八月中に札幌、仙台、東京、静岡、新潟、金澤、名古屋、京都、大阪、広島、高松、福岡、熊本、鹿児島、京城、臺北、宜蘭、花蓮、日時、湯野等の詳細は各地方官報に直接通知される。

その他、採用日は十月十日の豫定。

志願者は各地方官報、海軍省人事局、各地方官報、各地方官報人事課に申しこむ。

身體検査 身體検査は、身體健康、精神に異常なく、全身の發育が完全で大きな体格に合ふ者とする。

身長 一五五センチ、體重 四八キロ、胸圍 七七センチ、胸圍擴張 五五センチ、肺活量 三千立方センチ、握力左右各 二五キロ、各眼視力 一・〇以上

採用 採用者は採用後、採用と同時に海軍兵隊に入隊し、海軍での身分取扱は少尉候補生に準じて、約三ヶ月の地上訓練を経て、飛行訓練に入る。約六ヶ月の練習期間を経て、各航空隊に配属、實用訓練を経て、戦時中は全期間約一ケ年の養成訓練を終了し、豫備將校として海軍少尉に任ぜられる。

この養成訓練は海軍兵學校出身者と同じく、他日海軍の指揮官となるもので、とくに學生のみにゆきわたる道として、愛國の事情に概する學生諸君の志望にこたへるべく開かれた廣き門である。

# この日 全国の翼壯 曉天に誓京



五月二十七日 東京 澁谷

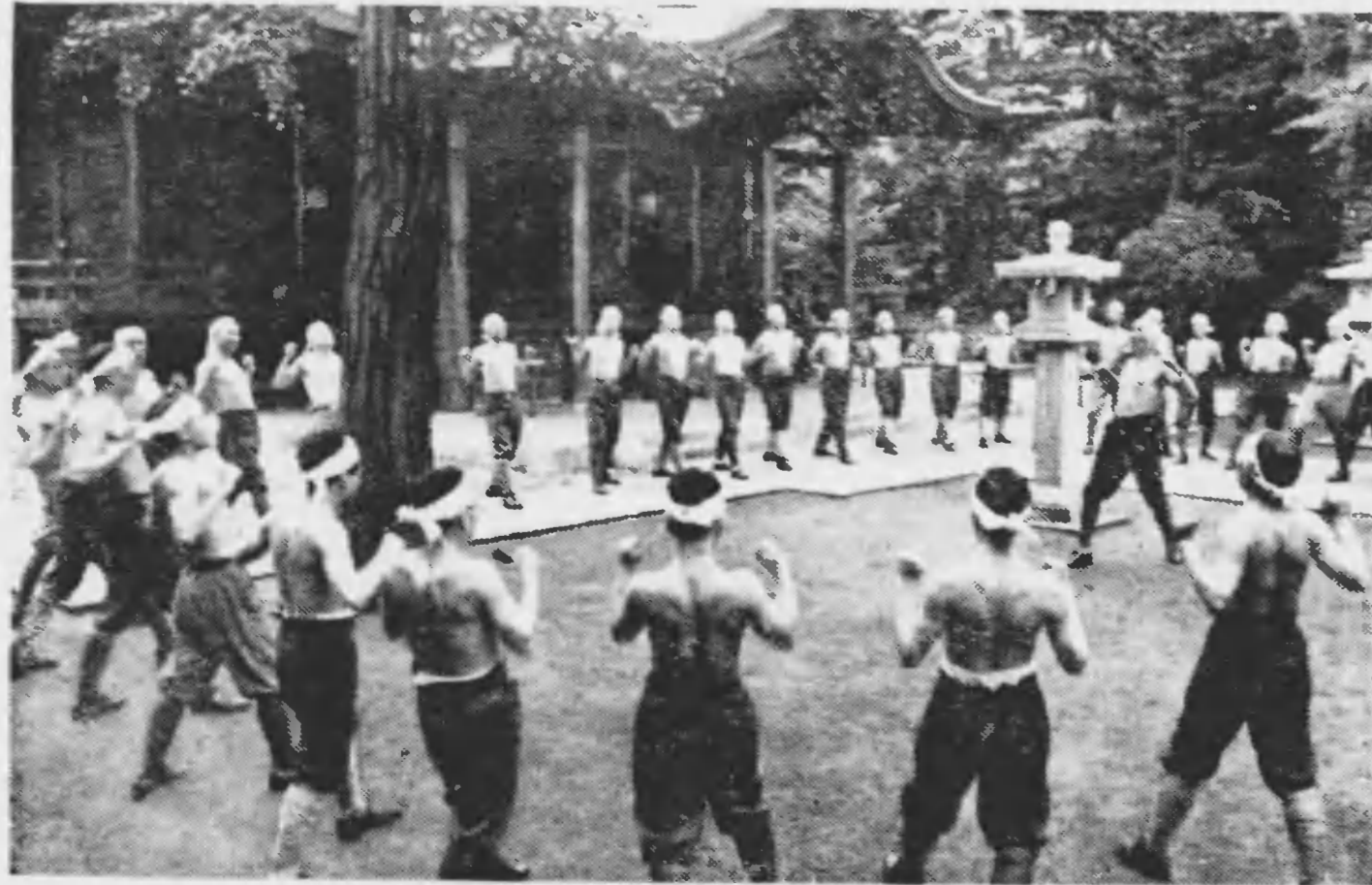
この朝霞をついて續々つめかせる朝霞  
 職員と共に拜殿前に進ずる後援隊等々

「幸甚と神前に唱和する澁谷區翼壯隊の發生」澁谷区神前神社で曉天の誓  
 翼壯隊年團では海軍記念日の早朝、後援隊大員は翼壯隊年團長  
 曉天時を期し、各市區町村團を單位として、全國百四十万團員の緊  
 急曉天動員を決定、全國一齊にそ  
 れぞれ最寄りの神社神前で「未英  
 撃滅誓願大會」を開催、山本元  
 帥の戦死を懐かしむと共に、日本海海  
 戦を想起して、一層英米撃滅に挺  
 身することを誓ひ合つた。この  
 朝、後援隊大員は翼壯隊年團長  
 として、動員の時頭に立ち、明治神  
 宮第一鳥居前廣場で開かれた東京  
 澁谷區翼壯隊年團の大會に出席、  
 烈々の訓示を行つて、全國員の激起  
 を促したが、引續いて澁谷區翼壯  
 隊年團の錬成道場たる翼壯隊の第  
 三期開隊式に参列、發生一同を激  
 勵した



この朝霞をついて續々つめかせる朝霞  
 職員と共に拜殿前に進ずる後援隊等々

なほ澁谷區翼壯隊は、分屬を代  
 長する優秀な人材を選抜、互に  
 切磋琢磨して、眞に國家の柱有たる  
 奇蹟を錬成する目的で開設されて  
 るのであるが、これまでの整と  
 はちがつて特定の建物を持たず、  
 明治神宮を母體として澁谷区神前  
 社、その地壇社などより神縁を  
 求めて、自主的に錬成の場所と  
 し、曉天の集ひ、一泊錬成、勤勞  
 體驗、民家掃蕩などを行つて、ま  
 ます同志的結合を強化、壯年團の  
 使命達成に邁進してゐる



「掛腹」を逞しく練習する隊員

日念記軍海回八十三第 奮動運大原ケ牧御 (郡久住北縣野長)

# 敵撃滅の錬成三十八年

「日本元帥の仇は討つぞ」  
 會場頭の数々に我らも燃つた。想へば、我らの父祖が、鎮壓された東郷元帥を小諸野原に鎮へたのは、明治三十九年だった。目のあたり「撃滅」の標旗を見た。標旗が、全郡早稲聯合運動會となつてから今年で三十八年、以来一年も缺かす、ところも同じ御牧ヶ原で續けて来た。

我らの祖父が、父が、我等が、三代に亘つて受け継いだ運動會も、今年は一先鋒に續け、敵撃滅大会となつた。御牧ヶ原の時代、我らの父祖が戦勝記念会ばかりではなく、他日皇國のお役に立つやうにと考へた。強い敵の標旗が、決戦のいま生きたのだ。

「お祖父さん、お父さん、お母さん、今宵は今宵へつてゐる。標旗の下で、終末まで撃滅します」と、我ら三万五千の會場は心から叫ぶ。



早稲聯合運動會  
 大平の球  
 だ、込  
 だ、込

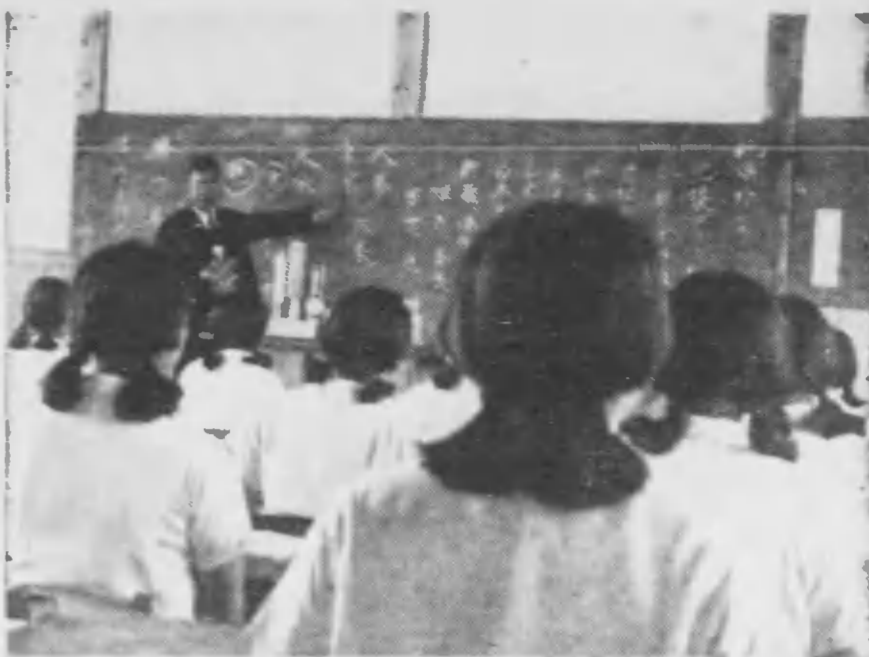
山本元帥に  
 對する敵に  
 對する敵に

古戦場御牧  
 終末まで撃滅  
 終末まで撃滅

息を固  
 意を心に  
 意を心に

杉野は  
 じつと人  
 地をみ  
 め、一  
 演する遊

撮影 仙波 謙



「乾燥野菜の製法」の知識を早速実践へ、のびのびと学習中である。

大根、人参など、薄くはれば五、六日ほどで乾燥完成はした。三日か四日だ。

# 萬に備へ 女学生の乾燥野菜の

岐阜県岩村高等實科女學校



前世界大戦でのドイツの敗因は食糧にもまつた。勿論、戦後の世界に絶した「苦」を想ふと、みちんも腹ははいへないが、空腹では十分戦力を發揮できない。いまや農村、都市を問はず、全国あげて食糧増産に凡ゆる努力を續けてゐるが、これは非常時に備へて乾燥野菜の製造にあつてゐる女学生の頼もしい姿である。

岐阜県岩村町の縣立高等實科女學校では、萬一の場合と、當然野菜不足に陥る冬の栄養補給を考へて、昨年から天日利用の乾燥野菜の製造をはじめ、原料も學校内の報國農場で自給して、昨年中に大根五十貫、人参二十貫、葱十貫の素晴らしい成果を挙げたが、今年には更に甲斐、キヤベツなど野菜の種類もふやさんと、一生懸命な研究と準備を進めてゐる。

撮影 榎本 滋賀

原料も自分の手で：農場では校長先生以下が増産の額をふるふ



「大根、人参の干し方をみせて、山の幸を乾燥野菜にする」



「味、匂いはお友達と話し合ひ、乾燥野菜の製法を實習してゐる」



## 農作業安習地 岐阜県岩村高等實科女學校





今日も捷報至る  
 北の戦友よ、ありがたき  
 大東亞の兵站基地  
 北支は、私達に引受けた

菜の花島  
 北より南より電波にのって  
 北支に來る  
 寒風に  
 北支に來る

俳句  
 群れ鳥吹雪の中を亂れ飛ぶ  
 春氣立つふみ書く窓の暖かさ  
 楊柳のふれあひ又銚並び居し  
 戦果あり戦友の墓標に梨の花  
 背伸びして冬の穂先の敵を撃つ  
 一瞬の弾丸の合間や蛙鳴く  
 ニラの花守備する兵と丘の上  
 驛馬の聲夜をふるはせ星凍る  
 夏草や戦友は假寝の歩哨線  
 弾道に伏せり寒徳をよぎる風

詩  
 捷報  
 北の寒風に吹きまわされて  
 鉄軌道はものに揺蕩する  
 南の戦友の  
 赫々たる捷報  
 ジャンキーを連れて来る  
 北方の戦友の  
 烈々たる捷報  
 北風にのつて来る  
 暴風なるユニオンジャック打倒  
 の日まで  
 進んで来れ！

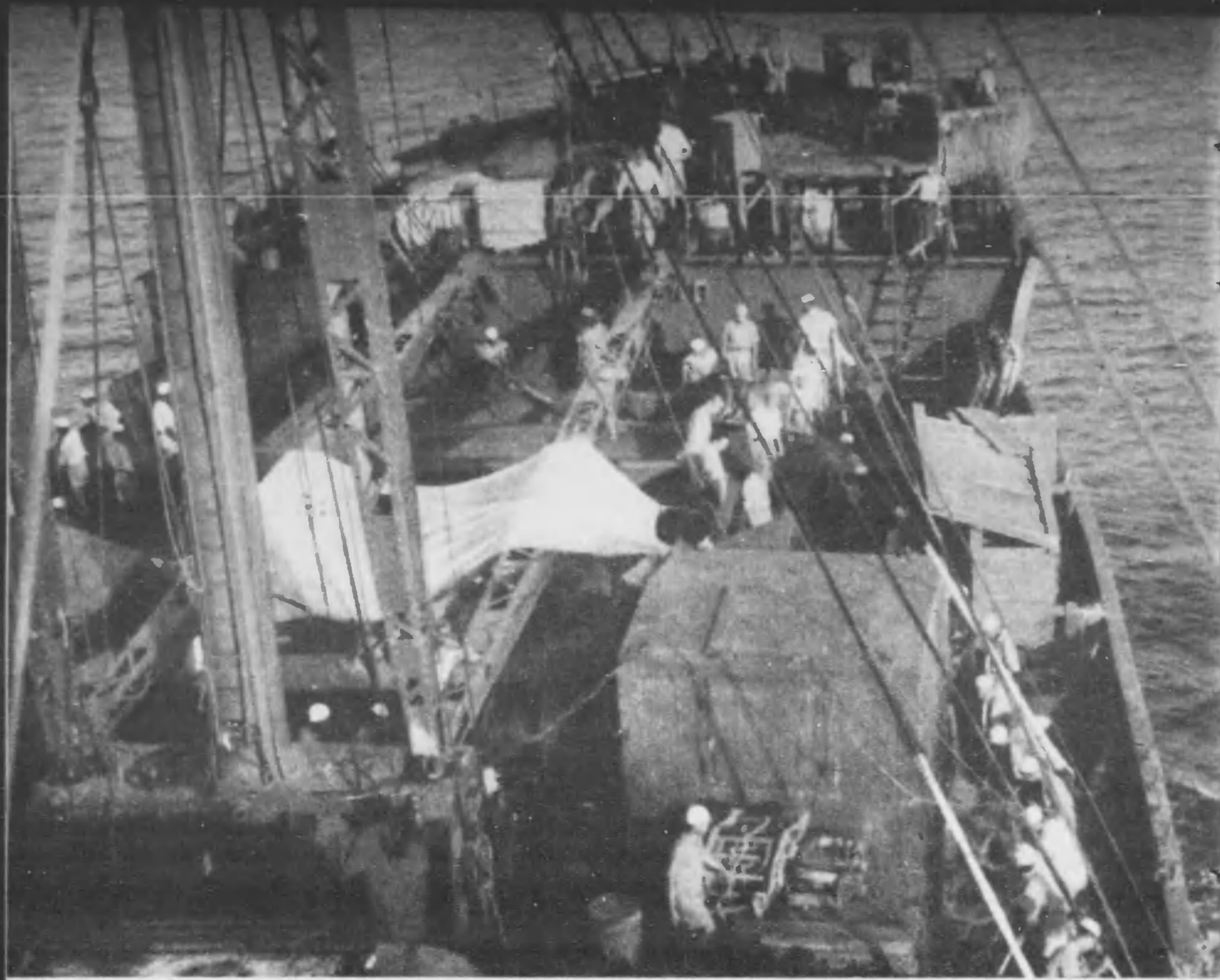
短歌  
 ゴム林にあへなく敵の口を捨てし戦車の敵に雨澁るる  
 ゴム林の小暗き路に明け暮れて水の碧さの親しかりけり  
 市街ふかく火は燃えのびて夜に入りし驛馬の啼き静もれり  
 妻切の中に一本咲く花の香の下に魂躍る  
 砲臺跡を撃ち出す地のとよみ香の花のはららきて若つ  
 尊れかけ、野のくらがり、に尾を引きて電光石火は美、さかも  
 れが便を振り見るとに思ふかた減らさばかじ仇なす國を  
 報むぞと愛して散りし戦友の尊思へば痛し我が心なり

大東亞海をゆく  
 目の丸丸海洋筏



# 大東亞海をゆく 目の丸丸海洋筏

戦前には、獨、佛、伊、英、米、いはれる。木船一隻でも、また船員  
 オランダ、デンマーク、ノルウェー、一人でも多くといふことが今日は必  
 スウェーデン等諸國の船が、目の丸丸 要なのであつて、實に輸送力を戦  
 船とともに大東亞の物資輸送に従事 争遂行の、大東亞建設の、成否の鍵  
 してゐた。それを、こんどはわが國 ともいへるのだ  
 が一手に引受けなければならぬ。 この輸送力増強をめざして、いま  
 即ち、大東亞諸地域の交易だけで、一 内地近海では船のほかに盛んに海洋  
 千五百万トンの船が少くとも必要と 筏が用ひられてゐるが、南方でも最



# 早くも巣立つた マライの現地海員



リナ・イカンホ・ニワラレワ  
る切を風で引は年有地現



陸上の動かぬマストとは異なり、船中のマストは揺れ動く。上へ上へとは上れない



撮影  
マライ軍政憲法宣傳部

海員は「頭振り」の猛訓練だ。腕が折れるか、オイルが折れるか、頑強な練習生

勝ちな海面をジャカルタに向ふ練習船。甲板の掃除は船員の必須作業だ

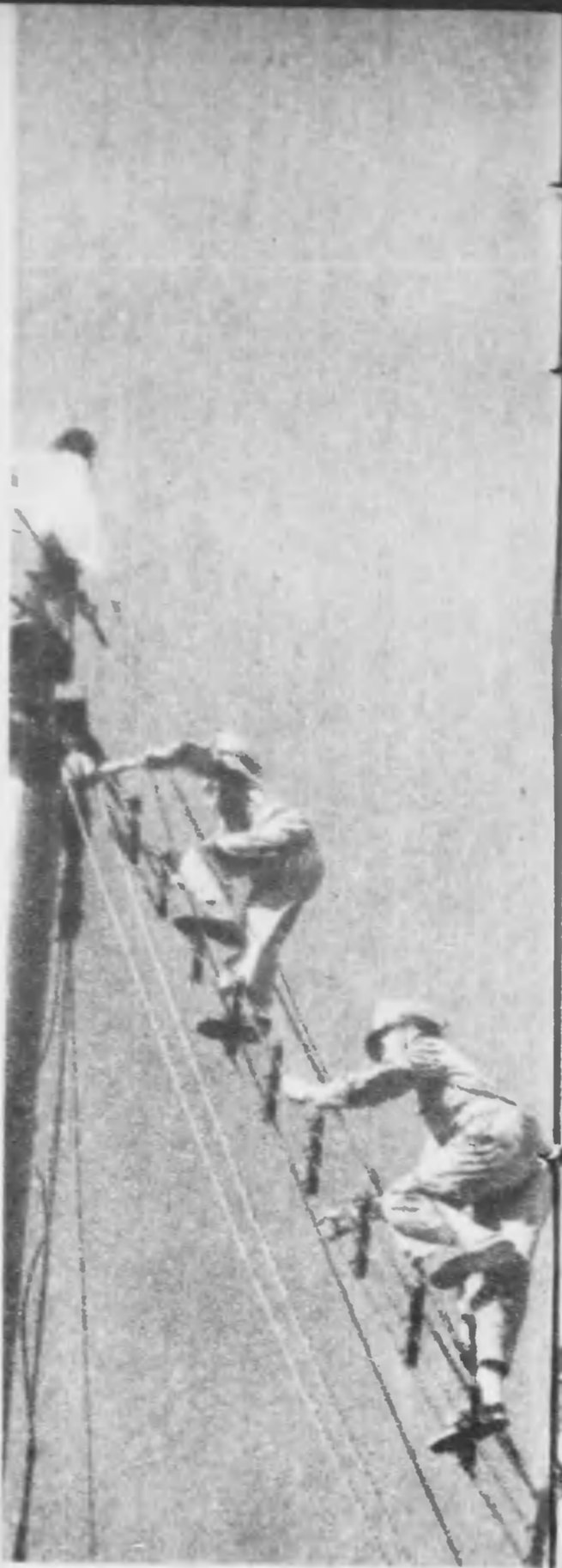
き、これらの第一回は天晴れ一人前の船員としてそれらの船に配属され、現地人とはいへ、海の戦士として第一線に船出するわけであるが、彼等は卒業式を前に四月二十四日、晴れの練習生として日本陸軍教官等の引率のもとに〇〇丸に乗り込み、初の現地訓練を受けた。短期の養成だつたとはいへ、さすが日本人的な錬成は見事に成果を収めて、インド人あり、マライ人あり、皮膚の色は違つても日本船員に比して、さうかの見劣りもない海上勤務振りには、指導者たちを非常に感服させた。昭南を船出してジャカルタまでの遠洋航海は、これら現地人海員に限りない海への自信を持たせ、早くも第二回の海員募集には希望者が殺到してゐる

大東亜の建設に自覚して海に志す現地人青年たち百七十名は、昭南現地船員養成所で四ヶ月間の訓練を受けてゐたが、五月下旬第一回生として憧れの大洋に巣立つた。戦時下輸送の重要がいよゝ高まる



機関は船の心臓部だ。機関員は玉の汗して機に石炭を投げ込む



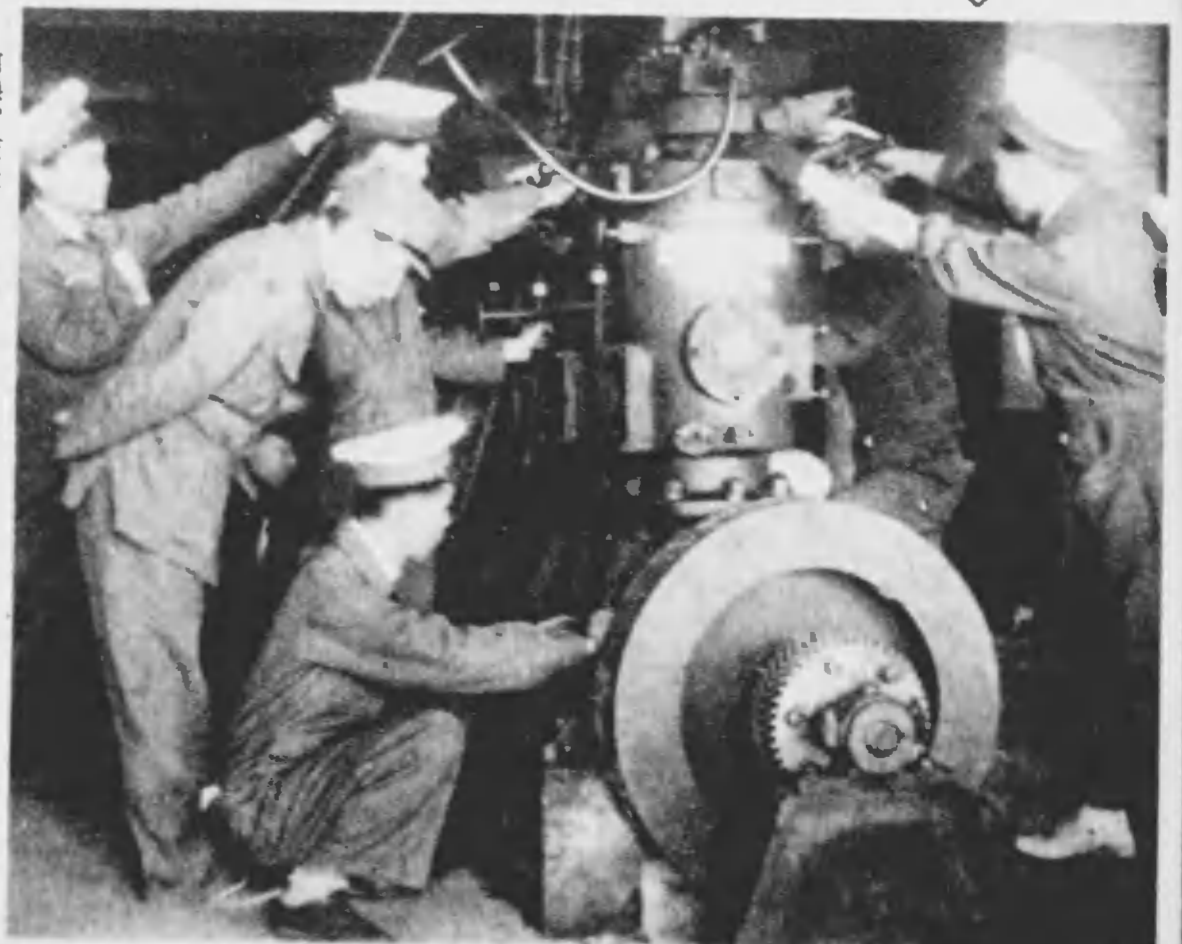


# 香港中の中国人海員養成所

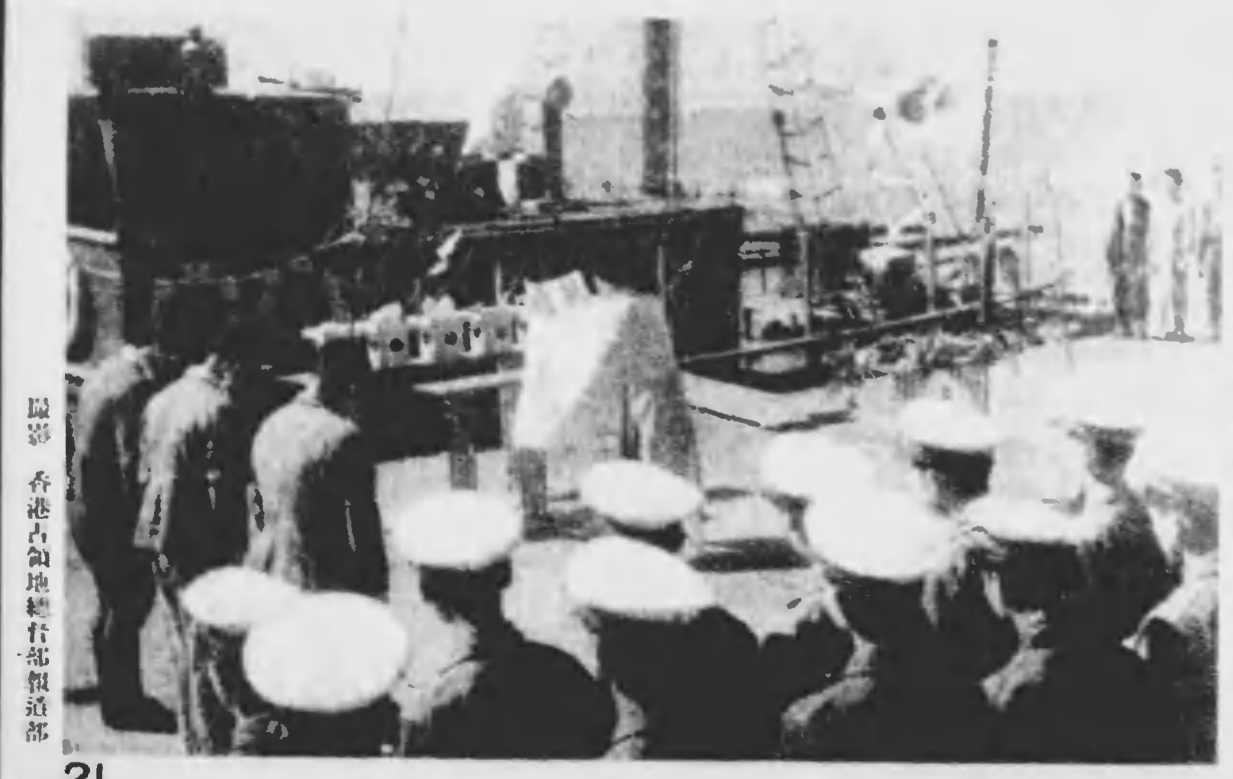
航海科 帆の張り方及び利用の仕方など、邦人海員の説明に耳を傾ける  
 機関科 油にまみれ、て機関の操作を熱心に学ぶ

マスト上り！日の丸を上げる中国人海員の心はずでに大洋に飛び出す  
 ラジオ機操！朝の太陽を胸一杯吸って、濃霧とラジオ機操だ

前線、銃後を問はず、今や大東亜の天地にはあらゆる部門に新建設への進軍語が高らかに奏でられてゐるが、復興成つた新生香港もいよいよ建設戦の段階に入り、多方面にわたつて力強い建設の雄音が日夜を分たす鳴り響いてゐる  
 本造船計画は快速調に進められ、一番船、二番船、三番船と矢張り早やに進水式を終り、中には日の丸の旗を南の海に靡かせて就航してゐるものもある。しかし、この機関船の造船に並行して、中国人の海員養成に大章の總督部では、三月に海員養成所を開き、邦人海員指導の下に、中国人海員の大量養成に當つてゐるが、既に第三期生を送り出し、決戦下、大東亜の大洋支配の希望に燃えてゐる

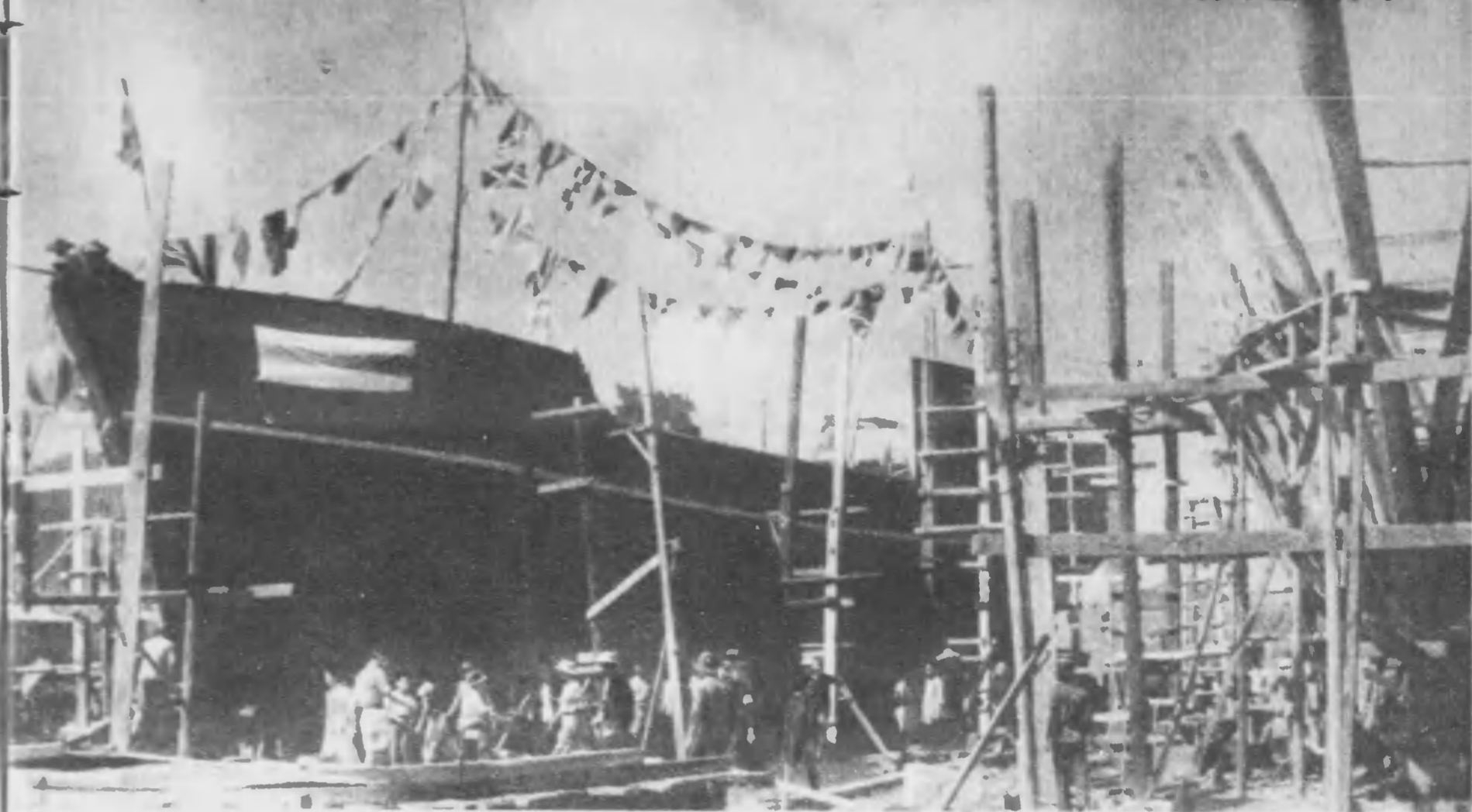


讀書、読むものも航海術や海上輸送の重要性など、海員常識を詰め込む書物ばかりだ  
 修成式！一番船、二番船と相次いで機関船は出来る。中国人養成所生はけふも機関船修成式に参列する



撮影 香港古銅地籍行部報道部

# 港香 人國中にも船造船木



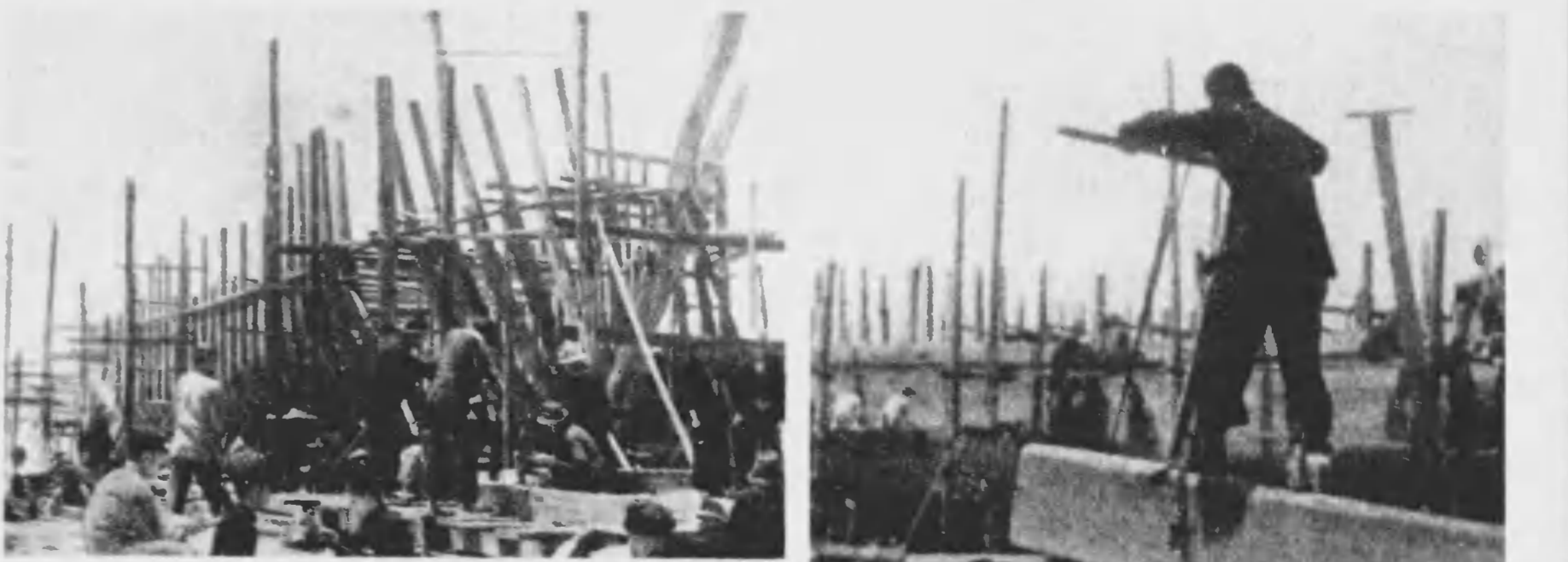
中国人得意の二人抜き船で上等の船材がどん／＼船の一部に變つてゆく

香港總督部では中国人海員養成所と並んで、中国人による木造船の造船を行つてゐる。南方の中国人はちよつと見たところ、如何にものんびりと作業してゐて、仕事荒つぱいやうに思はれるが、昔から「南船北馬」といはれるだけあつて、造船と船の操舵にかけては天才的な才能を持つてゐる。鐵の釘も使はずにトンカン（ジャンクのこと）を見事に作る。そして、風と潮に乗つて思ふまゝに船を操り、遠洋に出る手際は、流石にわが國と兄弟の間柄だけに、見上げたものだ。香港の人口の九割九分を占める中国人が、東亞の宿敵米英打倒のために造船の「勳と陣」をお役に立ててゐる姿にこそ、東亞解放の眞實がある

香港占領地總督部報道部

↑ 水ぎの船がもう進水式を待つてゐる。今に大東亞の海を船でうめるぞ

↓ 温しい體骨には、東亞建設の温しい魂がこもつてゐるのだ



海軍關係者等の複寫複製は海軍省承認済（第五二四二號）

★表紙

海軍たちは隊長の簡單な、しかし力強い訓示をうけると更めて愛護を前に、地圖を打らんで出發前の船密な作戦打合せに入つた。この基地の攻撃隊に〇〇夜間襲撃の命令が下つたのだ。敵の基地まで約四〇キロ、濃黒の闇夜で翔る。だが、海軍たちの同志は烈々、口には出さないが「元帥の仇討」の合言葉を腹にきりかきつけ、むしろ悲壯な氣が、プロペラの音とともに基地の夜をよるはせてゐる

撮影 寺尾海軍報道員

## 街の戦線

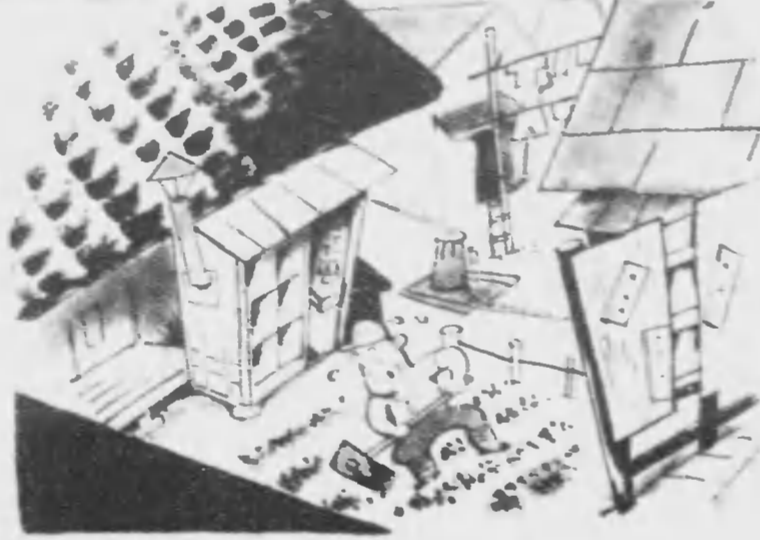
杉 狂夫

「昨日までは工場の主だったが、今日は最前線の戦線だ。まあ、僕らにまかせてお父さん一顧してくんぞ」

「あゝトモナイ、貯金の抽出になんぞ来たのは俺一人だ。恥かしい。抽出しは止めます」



「わづか子供の空想だが、わが家の食糧糧の糧糧として確保するぞ」



「しめた、男の子だ。これでわが家の前進基地を獲得したぞ。さて、立派な兵隊さんに育て上げなくちゃ」



「エイ、エイ、お前の給料で買った飯、だん／＼お父さんにあげてく」



## 讀者へお知らせ

寫眞週報は昨年七月以來四十万部を以て部数制限中のところ、各方面の増刷要請切なるものあり、また當面の時局にもふふ必要がありまゝです。来る六月十六日號よりグラビア用紙四頁を減じ約十萬部の増刷を行ふことにしました。もとより十分御期待にはそへないと思ひますが、購読御希望の方は最寄の書店又は各府縣官報販賣所（次號表紙裏に掲載決定）に一應御相談下さい。なほ、直接印刷局又は情報局にお申込みはお断り致します

大東亞戰時週報日誌は都合により休載

## 多神宮で進曲

「買ひ出したのは誰だ！ 野郎が欲しんですつて。そんな小心得は止め、私達と一緒に進曲をなさい」

「まあ、私のはトウ別だわ。どうしませう」

「しんべいおえで下さい。わしが先生さまになるだによ」

「お百姓さんも石橋さんもあきれた眼でなんだよ」

「もう二三十分も進曲かけつて人のヨ」

「平素の訓練後には進曲はくらはば戦場の手でわたし進曲はバケツレの備用」



寛貞週報



# 國債

國債★債券で  
さあもう一機  
もう一艦!

# 債券



賣出 6月15日 - 30日

大蔵省

**寛貞週報**  
禁轉載

昭和十九年五月  
九日印刷發行

本誌を回覧に  
本誌を回覧に  
本誌を回覧に

▲特大紙の場合  
其の他諸媒体  
全より支那各  
国に於て

部十錢

全国の官報  
所

所  
書局・發賣店  
新聞販賣店  
寫真材料店

内閣印刷局  
本誌の發行

前線慰問にも  
本誌を送るに  
本誌を送るに

内地と同様に  
本誌を送るに

本誌を送るに

本誌を送るに

本誌を送るに

内閣印刷局印刷發行